

平成22年度 唐津市立鏡山小学校 学校評価結果

1 学校教育目標

たくましい体と思いやりの心を持ち、自ら学ぶ児童の育成

2 学校経営ビジョン

「子どもが喜んで登校し、親が安心して通わせる学校に」(スローガン)

(1) めざす児童像

- ① か…考える子 よく考え、自ら進んで学習する子ども
- ② が…がんばる子 何事にも一生懸命がんばるたくましい子
- ③ み…みがき合う子 思いやりの心を持ち、互いに助け合い、みがき合う子

3 本年度の重点目標

- I 学力向上の推進(知)
- II 生活規律の徹底(徳)
- III 健康安全教育の推進(体)
- IV 地域と結びついた開かれた学校づくり
(地域連携)

4 前年度の成果と課題

学力の向上に向け、授業の改善に取り組んできた。また、家庭との連携に努めたことで基本的な生活習慣も徐々に向上している。さらに、「早ね・早起き・朝ごはん・ノーテレビ・ノーゲームデー」を保護者も巻き込んだ取り組みを、今年度さらに進めていくことが重要である。読書習慣の確立とともに指導を続けたい。今年度は、文部科学省の研究委託を受け、「食育」についても栄養教諭を中心に実践に取り組んでいきたい。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価およびその理由
学校運営	●学校経営方針	・本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。 認知度を教職員は90%、児童・保護者は80%以上にする。	C ・アンケートによると、学校の重点目標の認知度は、教職員96%、児童78%、保護者59%で、保護者以外の理解度は進んだ。
	○開かれた学校づくりの推進	・開かれた学校、意見・気づきを言いやすい学校づくり	・保護者からのアンケートで7割以上の回答。学校行事に地域、近隣の方にも参加を呼びかける。 ・意見・気づきをもらいやすいよう地域と連携の場を活用する。	B ・保護者からの「意見や気づきが言いやすいか」の「だいたい思う」以上の回答が83%であった。
	○安全・危機管理体制の整備	・安全・危機管理についての実践的指導及び実地訓練の実施	・火災、地震、不審者の侵入時等の避難訓練を各学期計画的に行う。 ・交通安全や声かけ等校外での安全指導を適時に機会あるごとに行う。	B ・保護者からのアンケートによると安全面についての対策は89%、職員が72%と昨年度と比較してどちらも10ポイント程度向上した。しかし、保護者や職員から裏門等の施設面で、不審者に対する安全管理の不十分さが指摘された。
	●学力向上・指導法改善	・学習習慣の育成 ・TTによる算数の学力向上	・話を聞く態度など学習規律ができていないか教師アンケート85%以上を目指す。 ・学力テストを前年度より1ポイント以上向上させる。 ・唐津市基礎学力テストの合格率を前年度より向上させる。 ・学年グループでの研究授業(国語)を行う。(年間3回) ・読書に親しませるため、週4回の朝読書を充実させる。	A ・話を聞く態度などについて「だいたいできていない」以上の教職員の評価が88%であった。 ・唐津市基礎学力テストのポイントが、どの学年も昨年度より2ポイント以上上がった。 ・CRT検査の結果、全国比が国語は、97.1(前年度96.1)、算数は101.8(前年度99.1)になった。

教育活動	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・あいさつ・言葉遣いの指導 ・人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい道徳」で保護者の70%の参加を目指す。 ・90%以上の児童が元気なあいさつができる。 ・学年に応じた言葉遣いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観への保護者への参加率は()となり、さらに高まってきている。 ・87%の児童が進んであいさつをしていると答えているが、まだ十分ではない。
	●健康・体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・食育についての具体的実践 ・体力づくりの推進 ・給食指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・食についての正しい理解と望ましい食習慣を身につけさせる。(早寝、早起き、朝ご飯の習慣化) ・栄養教諭とのTTによる授業を計画的に行う。 ・晴れた日には外で元気に遊ぶ(90%以上の児童)。 ・新体力テストで平均を上回る。 ・給食残菜を前年度よりさらに少なくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・95%の保護者が健康・体力づくりに努めていると回答している。 ・職員は100%体力作りや食育に取り組んでいると回答している。 ・5・6年のスポーツテストの結果、全国平均を上回っている項目(8)が、4～7項目ある。 ・児童の97%が給食を残さずに食べていると回答している。
	○教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童対策 ・「気になる子」への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向の児童の早期発見に努める。 ・全校児童の中で、「気になる子」についての共通理解を図り、全校的に支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向の児童の理解に努め、今年度は不登校児童ゼロである。 ・各学級の「気になる子」についての研修会を開催した。 ・SCの来校時には、保護者や担任の相談に積極的に関わっていただいた。
特定課題	○生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の育成 ・静かで明るい学校生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のノーテレビ・ノーゲームデーの実施率の向上。 ・気持ちの良いあいさつをする。 ・廊下は静かに歩く。 ・掃除は静かに協力して行う。 ・正しい言葉づかいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員や児童の意見にも「言葉遣いについての指導が不十分である。」などの意見があった。保護者からのアンケートにも児童の言葉づかいの悪さが指摘された。
	●小学校学習環境改善充実	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年基本的な生活習慣・学習習慣の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る。 ・元気のよいあいさつをする。 ・教師、友達の話を聞く。 ・宿題をきちんとする。 以上4点を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「時間を守る(94%)」、「宿題を忘れない(92%)」、「元気のよいあいさつ(87%)」、「教師、友だちの話を聞く(91%)」などの基本的な生活習慣ができていているという児童の回答であった。
	○幼保小連携 ○小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園との連携の強化・充実 ・小中を見通した学習習慣の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小連絡協議会を年3回以上開く。 ・保育園や幼稚園との交流活動、合同授業を実施する。 ・学期に1回以上小中連携会議を開く。 生徒指導、学習指導等(部ごと含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小の連携について教職員の理解は、昨年度32%から48%へ向上してきている。連絡会も2回から3回に増えた。 ・『小中連携推進会議』を立ち上げ、主幹、教務を中心にして、年間計画をたてた。中学校の授業参観、意見交換、生徒会の学校紹介等の共同の活動や、言葉づかいの共通理解を図り、共通した意識をもって指導することを確認した。
	○特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育への全職員の理解推進・体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内就学委員会と特別支援委員会を適宜開催する。 ・適切な年間計画の下、支援を要する児童の個別支援計画の作成と、支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に特別支援委員会を実施し、2学期から配慮を要する児童に対して個別の支援計画を作成し、指導を行っている。その結果、少しづつではあるが、学習面、生活面においても向上してきている。

6 総合評価

学校教育目標の実現に向け、1年間取り組んできた結果、おおむねどの項目において、目標を達成できた。重点課題であった学力向上も学力向上推進委員会を立ち上げ、計画的な指導方針や「問題データベース」の活用など、学年に応じた指導の結果、CRT検査の結果も全国平均と同様、または、それ以上になってきている。

「早ね・早起き・朝ごはん」のキャッチフレーズによる保護者への啓発、「ノーテレビ・ノーゲームデー」の重点目標の細分化、家庭学習の習慣化を図るための手引きの活用などを行うことで、基本的な生活習慣が定着してきた児童が増えてきた。

しかし、生活面で、言葉遣いや挨拶等が不十分な状況である。来年度の最重点課題として取り組む必要がある。

また、今年度立ち上げた、『小中連携推進会議』、『特別支援教育における個別の支援計画の必要のある児童』の目標めと次年度への引き継ぎ等、確実な引き継ぎと共通理解を全職員が持つことが必要である。

7 次年度への課題・改善策

◎全校的に基本的な生活習慣の確立をさらに徹底し、落ち着いた学校をめざし、元気なあいさつや正しい言葉づかい、掃除の上手な子どもの育成に重点を置いていきたい。

◇食育については、次年度も、日々の学習指導や生活指導の中で食に対する取り組みを継続していき、学校と家庭・地域がさらに協力・連携を深めていきたい。

◇CRT検査の分析を行い、課題を把握し、課題解決のための手立てや指導方法の工夫改善を行い、さらに学力の向上に努めたい。

◇特別支援教育については、一人一人の児童への適切な関わり方や全校児童への啓発と全職員の共通理解を図りながらさらに取り組みを強化していきたい。

◇幼保小の連携や小中連携、家庭地域との連携について、今年度の取り組みを検証し、次年度への引き継ぎを確実にを行う。